

介護あんしん 相談員だより

第19号 平成27年11月発行
発行：鳥栖地区広域市町村圏組合
(介護保険課 地域支援係)
連絡先：0942-81-3111

介護あんしん相談員は橋渡しをします！

施設に入居していると、ちょっとした不満や不安があっても、直接スタッフに言うことを遠慮してしまうことがあります。介護あんしん相談員はご本人やそのご家族が施設職員に直接は言いにくいことをお聞きしたり、客観的な目で見て気づいた点や、施設側からのご意見を伝えて問題の解決をはかります。



利用者さんや介護あんしん相談員の声からいくつかご紹介します
(平成27年8月・9月)



～介護あんしん相談員の声より～

相談員：以前に比べ、寝たきりの方も車椅子に起きている事が多くなりましたね。
施設：「個別ケア」に力を入れ、各担当スタッフが入所者のケアに責任を持って立案・実現しています。体調に合わせ、週に1回～毎日離床出来るよう、取り組んでいます。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



施設で常時寝たきりでは、ほとんど外部からの刺激がありません。しかし、話しかけて反応が困難な利用者でも、日中はホールに出て、みんなと一緒に過ごすようにするなど、職員の様々な働きかけも増えることがうかがえます。その事により、利用者の表情に変化が表れてきたり、発語はなくても反応がはっきりされたりしているのではないのでしょうか。相談員から、以前は集団でのリハビリが行われていましたが、今はその方にあったリハビリをされているそうなので、集団より効果が上がっているのではとの報告がありました。リハビリの専門教育を受けた若い方が頑張っておられるそうです。利用者の自立に向けた施設の取り組みは素晴らしいと感じました。

相談員：お部屋のゴミ箱が、いっぱいになっていました。

施設：週に1回、居室清掃時にスタッフが捨てていますが、それ以外の日はホールに大きなゴミ箱を置いてありますので、自分で捨てる事ができる入居者は自分で捨てていただくようにしています。それも自立支援だと考えています。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



ほんとうにそうですね。施設は生活の場です。動く事ができる利用者さんは、自分で身の回りのことをして、役割を持って生活することが、寝たきりにならないで元気に暮らしていくヒケツです。全部施設の職員さんにお世話をしてもらっていたら、あつと言う間に体力が低下して、外出や楽しいゲームに参加することなど、今まで出来ていた事が出来なくなります。一歩ずつでも、少しだけでも、自分のペースで身の回りの事を出来たら良いのではないのでしょうか。

施設のスタッフさんに自立支援の考え方が浸透してきたことは、とても喜ばしいことだと思います。出来ないところには、そっと寄り添って支援をしていただければと思います。



～利用者さんの声より～

利用者：病院受診をした時に、付添いのスタッフと病院の先生とだけで話をするばかりで、自分の思いを伝えられなかった。私の話を聞いて欲しかった。
施設：受診の際には、本人への説明を行うようにしておりますが、ご本人の意にそぐわない場面もあったようです。受診後のフォローも含め留意します。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



利用者さんは、受診の際にとっても疎外感を感じられていたのではないのでしょうか。うまく病状を説明出来なかったとしても、先生には声をかけて欲しかったのではないのでしょうか。

例えば先生が、スタッフさんに直接声をかけられたにしても、すぐに返事をするのではなく、スタッフさんから一度利用者さんに「ね、〇〇さん どうですか？」と間接的にでも聞かれたら疎外感を感じられなかったのではないのでしょうか。

こちらの利用者さんは、「自分の思いを伝えられなかった。」ということですので、十分に説明をすることが出来た方なのではないのでしょうか。「自分の話を誰も聞いてくれない」「自分は大切にされていない」と感じると、段々とあきらめて閉じこもり、周りの人に何も言わなくなってしまいます。たとえ質問とは違った答えになってしまったとしても、それはそれで良いのではないのでしょうか。お忙しい中スタッフの方も病院の付添い等大変だと思いますが、利用者さんの思いを考慮した対応を、今後ともよろしくお願いいたします。



わたしたち、介護あんしん相談員は一人一人の小さな思いを、お伝えします。